

令和6年度 小松島西高等学校 学校評価 総括評価表

重点課題 I 学習指導の充実と専門教育の推進

自己評価						学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見		
	評価指標	評価指標の達成度		総合評価			
1 基礎基本の徹底により学習意欲を喚起し、基礎学力の向上を図る。	1 ・「主体的な学習取組」(生徒) ・「授業満足度」(生徒) ・「定期考査期間中の家庭学習実施率」(生徒) ・「学力向上や学習内容への満足度」(保護者)	75%以上 80%以上 80%以上 80%以上	1 ・「主体的な学習の取組」 ・「授業満足度」 ・「定期考査期間中の家庭学習実施率」 ・「学力向上や学習内容への満足度」	56.5% 89.1% 77.0% 82.0%	(評定) C A B A	・「主体的な学習の取組」という評価指標の達成度が低かったのは、生徒個々の学習に対する意義等の理解について課題があるのではないか。	・日々の学びを将来の自分の人生設計にどう役立てていくかということを意識させられるような授業計画や展開を工夫することで、生徒の主体性を引き出していく。
2 専門的な知識・技術の習得により、スペシャリストとしての基盤を育成する。	2 各学科の取組と目標 【商業科】 ・卒業時の全商検定 3級取得率 90%以上 2級取得率 60%以上 1級取得率 40%以上 【食物科】 ・消費者教育(エシカル消費を含む)の推進 ・卒業時の家庭科技術検定(食物調理) 1級取得率 100% ・食育インストラクター 合格率 100% ・技術考査 合格率 100% 【生活文化科】 ・卒業時の家庭科技術検定(被服製作) 2級取得率 100% ・色彩検定 合格率 50%以上 【福祉科】 ・校外模擬試験 平均得点率 60%以上 ・介護福祉士国家試験資格 取得率 100%	2 【商業科】 ・卒業時の全商検定 3級取得率 98% 2級取得率 75% 1級取得率 14% (達成できず) 【食物科】 ・米粉商品の開発及び販売などを継続。校内及び校外の各種イベントで販売し、大変好評だった。 ・卒業時の家庭科技術検定(食物調理) 1級取得率 100% ・食育インストラクター 合格率 98% ・技術考査 合格率 100% 【生活文化科】 ・家庭科技術取得率(被服製作) 2級取得率 100% ・色彩検定 合格率 35% 【福祉科】 ・校外模擬試験 平均得点率 55.7% ・介護福祉士国家試験資格 取得率(結果待ち) ※ 3月24日合格発表	A A C B A A	・全商検定の1級取得率の目標設定はこれまでの達成状況を踏まえ、まずは20~30%くらいでよいのではないか。モチベーションを上げてから徐々に取得率を上げるのが適切なのではないか。 B	・1級取得率の目標設定をもう少し下げてみる。新たに、三種目以上1級取得者を増やす。 ・体調不良で受検ができるいない生徒がわずかだがいるため、体調管理も含めて指導したい。 ・検定合格に向けての学びが学力向上につながるよう指導方法を工夫する必要がある。 B	・検定合格に向けての学びが学力向上につながるよう指導方法を工夫する必要がある。	・校外介護実習後、すぐに模擬試験を実施したため、得点率が下がったと思われる。実施時期を考えるとともに長期的視野によりコツコツ勉強に取り組ませたい。
	活動計画	活動計画による実施状況		(所見)			
	1 ・教職員による相互授業参観週間を年2回(6月・11月)実施し、評価に基づいた授業改善を行う。 ・基礎学力の定着や学習意欲の喚起を目的とした課題テストを実施する。 ・各学期末成績において欠点科目等がある生徒は、三者面談	1 ・相互授業参観週間を年2回(6月・11月)実施し、各教員が授業力向上に努めた。 ・課題テストは長期休業明けに年3回実施し、長期休業中の学習習慣の確立をはかった。 ・各担任・学年主任による三者面談を丁寧に行		・生徒の授業満足度や保護者の学習内容への満足度は確実に向上しているものの、生徒の家	・学校運営協議会委員の授業参観を企画してほしい。各学科を担当する先生の授業を観ることでもっと具体的な評価ができるの	・ICT機器の取扱いに関する教員格差が課題であるため、研修等を通して、互いがサポートし合い各教員のICT活用スキル	

<p>を行い、学習意欲を喚起する。</p> <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業でICTを積極的に活用し、生徒の興味・関心を高めるとともに、多様な学びの機会を提供する。 専門領域の外部講師の継続招聘により、最新の情報や技術を習得させ、資格取得や技術向上につなげる。 学習内容について理解したことや自分の考えを文章にまとめさせ、話しいや発表の機会を増やすことで深い学びにつなげる。 定期考查や検定等に向け、計画的に家庭学習に取り組む習慣をつけさせる。 	<p>い、成績不振者に対して家庭の協力を仰ぎながら学力向上につなげた。</p> <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業サポートソフト CANVAの活用についての職員研修会等を実施し、多くの教員が積極的に参加した。 <p>【商業科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門領域の外部講師の継続招聘により、最新の情報や技術の習得につながる魅力的な講座を開くことができた。 プレゼンテーションアプリを活用し、課題解決に向けた報告を行った。 <p>【食物科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ピザーラと連携し、商品開発を行ったり、四国電力主催スチコン活用術の研修や大阪の企業による包丁の研ぎ方講習会など、外部講師による講習の機会があり、生徒の知識技術の向上に役立った。 ICTを活用し、商品開発においてプレゼンを行い、コンセプトやキャッチフレーズを考えなど、話し合いの機会が増え、深い学びにつながった。 各種料理コンテストへの応募の機会も多数あり、積極的に取り組んでいた。 <p>【生活文化科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ウォーキング、メイク、カラーコーディネイト、陶芸、藍染め、デッサン等において外部講師を招いた授業を展開した。 <p>【福祉科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの活用により、校外介護実習の学びの報告会において、プレゼンテーションを行ったり、共同学習を行うなど、主体的な学びにつなげることができた。 	<p>庭学習・自主学習への取組には課題が残っており、学習の習慣づけの工夫が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTに関する研修など様々な機会を通じて、各教員がICT活用スキルの向上に積極的に努めている。 	<p>ではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校のPRにはHPが有効だと思うので、HPの記事掲載の際に学科間や部活動間の格差がないよう力を注いでほしい。 CANVAの活用は大変便利でおすすめである。 外部講師を招いての講演や授業はとても大事で、社会との関わりを増やすことで生徒の地域社会に対する関心度や意識も変わっていくのではないか。 ピザーラとの連携は素晴らしい取組であった。いろいろな企業と連携して商品開発や販売ができる、生徒の専門性の向上につながるのではないか。 小松島市が連携協定を結んでいる大手化粧品メーカーのスタッフを外部講師として派遣することも可能であり、新たな取組を企画していただきたい。 福祉科への入学希望者が増加するよう地域と連携した取組を考えてみてはいかがか。 福祉科での学びをもとに医療系や保育、社会福祉への進学選択があることをもっとアピールしていきたい。
--	---	---	--

重点課題 II 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成

自己評価						学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策	
評価指標	評価指標の達成度		総合評価		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策	
	評価指標		(評定)				
1 基本的生活習慣の確立を図り、社会的自立に向けた能力を育成する。	1 ・全校で遅刻0日（生徒） ・服装・頭髪指導の実施（生徒）	年3日以上 月1回	1 ・全校で遅刻0日（年間3日以上）を達成することはできなかった。 ・服装・頭髪指導は、予定どおり実施した。	C A B	・生徒は遅刻0日を達成する目標を掲げていたことを知っていたのか。知っていたかどうかは目標達成において非常に重要である。 ・ルール等の遵守率74.5%は低いのではないか。 ・ルールの遵守率とあるが、継続できてこそ遵守といえるのではないか。遵守を継続させるような指導を引き続きお願いしたい。 ・アンケートの実施回数ではなく、成果指標を打ち出すべきではないか。	・来年度も遅刻0日の取組を行う場合には、周知の徹底に務める。	
2 社会規範を正しく理解する教育を推進し、主体的な規範意識の醸成を図る。	2 ・「ルールやマナーの遵守」（生徒） ・いじめ防止のための取組（面談・アンケート）	80%以上 年2回以上	2 ・ルールやマナーの遵守率 74.5% ・いじめ防止のためのアンケートを年2回実施し、適宜面談を行った。	A	・ルール等の遵守率74.5%は低いのではないか。 ・ルールの遵守率とあるが、継続できてこそ遵守といえるのではないか。遵守を継続させるような指導を引き続きお願いしたい。 ・アンケートの実施回数ではなく、成果指標を打ち出すべきではないか。	・アンケート実施後の事後指導に効果があったかを成果指標とする。	
活動計画	活動計画による実施状況		(所見)		学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策	
	活動計画による実施状況		(所見)				
1 ・規則正しい生活を送ることで、遅刻や欠席をしないよう指導するとともに、進路実現に向けた意識を高揚させる。 ・月初めに全校集会や服装・頭髪指導を通して、身だしなみや挨拶の重要性を生徒に理解させ、社会での実践力につなげる。	1 ・8時45分から5分間の朝学習の時間を設定し、漢字検定に向けた学習などに取り組んだ。 ・月に1回、学年団で服装・頭髪検査を実施し、違反があった生徒については改善に努めるよう指導をし、一定期間を設けた後、個別に再検査を行った。	1 ・専門高校であり広域から通学する生徒がいるため、遅刻0人の達成は難しかった。	・生徒会を主体とした服装、頭髪などのルールづくりを実施してみてはいかがか。	・生徒会を主体とした校則を考える機会はすでに設けており、少しずつ時代や学校に応じた校則に変更している。今後も毎年の見直し作業は、継続実施をしていく。			
2 ・ルールやマナーを守ることが自他を守ることにつながることを、アンケートの実施や様々な機会を通じて理解させる。 ・関係機関と連携し、スマートフォンの適正利用や薬物乱用防止に関する講演会を実施する。 ・学校生活アンケートを実施し、いじめや不登校の未然防止や早期発見に努める。	2 ・毎月1日に全校集会を行い、学校生活におけるルールを指導し、理解を促した。学校評価におけるアンケートで、理解度を確認した。 ・7月に飲酒・喫煙・薬物乱用等防止教室、スマートフォン・携帯電話安全教室を12月に、ともに外部講師を招聘して実施した。 ・こころの健康アンケートを、年間2回実施。結果を分析し、気になる回答があった生徒に対しては、個別の面談等を行った。	2 ・化粧とスカート丈に関しては継続的な指導によってほぼ改善がみられた。 ・スマホ・携帯安全教室の実施によって、生徒のスマホ操作に一定の効果があった。	・J R通学者が冬期にスカート下にジャージをはいている姿をよく見かけたが、制服の着こなしに対する意識改革が必要ではないか。				

重点課題 III 人権教育の推進と特別支援教育の充実

重点目標	自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標と活動計画		評価			
評価指標	評価指標の達成度	総合評価				
1 自尊感情を高める教育を推進するとともに、人権尊重の精神の涵養に努める。	1 ・「良好な人間関係の構築」(生徒) 80%以上 ・「人権学習の満足度」(生徒) 80%以上 ・「子どもの自尊感情の高揚」(保護者) 70%以上	1 ・「良好な人間関係の構築」 77.8% ・「人権学習の満足度」 78.0% ・「子どもの自尊感情の高揚」 77.3%	(評定)	B	・現在の高い目標意識を今後も維持していただきたい。	・良好な人間関係を築くための方策や子どもの安全・安心な教育環境整備に努める。
	2 ・「安全・安心な教育環境の整備」(生徒) (保護者) 80%以上 ・「スクールカウンセラーだより」の発行 年4回以上	2 ・「安全・安心な教育環境の整備」(生徒) 80.6% (保護者) 79.3% ・「スクールカウンセラーだより」 年4回発行	A	A		・特別な支援を要する子どもたちへの配慮を十分に行う。
2 個別の生徒理解に努め、特別な支援を要する生徒への対応を充実する。	活動計画 1 ・人権教育課を中心に人権教育ホームルーム活動で学習する個別の人権課題に基づいた資料の準備や作成をする。 ・松西人権週間の展示用ポスター、標語、書道作品を制作させる。 ・夏季休業中の人権学習課題として、人権啓発作品を募集する。	活動計画による実施状況 ・各学年とも年間5回の人権学習HR活動にむけ、年間計画に基づいた資料作成を行った。 ・芸術の授業において人権啓発作品を制作した。 ・「心に虹をかけた まほうの言葉」「人権作文」「人権ポスター」「人権書道」を募集した。	(所見)	・各学年で共通理解のもと実施した。 ・第1学年の生徒が制作した。 ・提出数 391点 提出率 80%	・人権教育HRが生徒にしっかりと響いているものと期待している。	・新しい個別的人権課題をテーマに取り上げて取り組みたい。
	2 ・特別支援教育研修会や教育相談ケース会議を実施する。 ・生徒・保護者にカウンセリング日を周知し、相談活動の充実を図る。	・特別支援教育研修会を7月に開催した。また、今年度4回の特別支援委員会およびケース会議を実施することができた。 ・スクールカウンセラーの来校日を生徒に周知し、相談活動を促した。	・スクールカウンセラーによる相談事業は生徒らに浸透しており、生徒・保護者ともによく利用していた。		・スクールカウンセラーだよりの発行回数を指標に掲げるのではなく、発行による成果を目標に挙げることで実効性につなげていただきたい。	・スクールカウンセラーだよりの内容を実践的なものにしたり、取り上げたテーマに関する研修会を実施するなどの改善を図る。

重点課題 IV キャリア教育の推進と進路指導の充実

重点目標	自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標と活動計画		評価		
	評価指標	評価指標の達成度	総合評価		
1 望ましい勤労観・職業観の育成と個々のライフプランの構築を図る。	1 ・外部講師招聘 ・「専門性の向上」(生徒) 年2回以上 80%以上	1 ・外部講師招聘は4回以上 (全学科における進路関係のもの) ・「専門性の向上」 96.6%	(評定) A	・ライフプランの構築及び地域貢献に係る指導面の指標の達成度については高く評価できる。	・高い評価をいただいているので継続していくつ、現状維持ではなく、良いと思われるものは取り入れる。
2 個々の能力や適性を的確に把握し、きめ細やかな進路指導に努める。	2 ・インターンシップの実施 全学科実施	・食物科・生活文化科・福祉科で実施した。	B		
3 地域の産業や文化の理解及び地域課題や貢献意識につながる進路指導を行う。	3 ・進路ホームルーム活動 ・「自分の能力や適性の把握」(生徒) 年3回以上 80%以上 ・「生徒・保護者への多様な進路情報の提供」 (生徒・保護者) 90%以上	・進路のホームルーム活動は年3回実施した。 ・「自分の能力や適性の把握」 89.4% ・「進路情報の提供」 (生徒) 86.9% (保護者) 74.0%	A A B B	・外部講師を招いての事業は大変よいと思うので、今後は様々な分野に広げて取り組んでみてはいかがか。特に、若手のエネルギーッシュな講演は生徒のやる気につながるのではないか。	
	活動計画	活動計画による実施状況			
	1 ・外部講師による授業を実施し、専門的知識・技術の習得につなげる。 ・インターンシップ・オープンスクールへの参加を推奨し、生徒の進路選択の幅を広げる。	1 ・福祉科において、専門領域の外部講師を招き、作業療法士、歯科衛生士、摂食・嚥下認定看護師、等の講師から専門的分野と介護の連携について講義を行っていただき深い学びにつながった。 ・生徒各自でオープンスクールの申込ができるよう案内を行った。	(所見) A	・事業所への就職希望者66名に対し、見学者140名以上の参加があったことから、生徒の意識の高まりがうかがえる。	・応募前職場見学やオープンスクールへの参加を引き続き推奨していく。
	2 ・保護者対象の進路ガイダンスや面談等を実施する。 ・ホームルーム活動を通して、多様な進路選択の情報を提供する。 ・特別な支援を要する生徒に対し、担当教員や関係機関と連携して進路指導を進める。	・就職において、ミスマッチを防ぐため応募前職場見学を推奨し連絡調整を行った(応募前職場見学140名以上)。 ・求人票閲覧システムを導入し、個人端末からすべての求人票を見られるようにした。 ・支援を要する生徒に対して応募先担当者と連絡をとり、進路実現に繋げた。		・進路希望票に沿った応募先を開拓してきた。	・ミスマッチを防ぐことは企業や本人にとっても重要なことであるので、特に力を注いでほしい。
	3 ・専門授業・ホームルーム活動等を通じて、地域産業の情報提供、地域貢献活動への参加啓発を行う。 ・企業訪問(連絡)の実施等を通して進路開拓を行う。 ・学年団での情報共有に努め、よりよい進路指導を行う。	・来校した採用担当者の話を聞いて、情報収集に務めた。 ・適宜訪問や問い合わせを行う他、合同企業説明会に参加し、収集した情報を学年団で共有した。			・引き続き事業所、生徒からの情報収集に努める。 ・より使いやすくなるよう「進路の手引き」の改訂を行う。

重点課題 V 特別活動の活性化と地域連携の充実

重点目標	自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標と活動計画		評価			
評価指標	評価指標の達成度	総合評価				
1 学校行事や部活動を通して、生徒が主体的に参画し、多様な他者と協働して取り組む資質・能力を育成する。	1 ・生徒会を中心に企画立案した行事の開催 ・各部活動による行事協力・自主的奉仕活動の実施 年3回以上	1 ・対面式等生徒会中心の企画は年3回以上実施した。 ・各部活動が学校行事などに自主的奉仕活動ができたのは年3回以上あった。	(評定) A	A	・目標達成している評価指標については、これまでの実績を踏まえ、上方修正をしてはいかがか。	・90%以上を目標とする。
2 公開講座や行事等を通して、地域に貢献できる活動を推進する。	・「生徒会活動に対する満足度」 (生徒) 80%以上 (保護者) 70%以上	・「生徒会活動満足度」 (生徒) 87.8% (保護者) 79.2%	A	B	・部活動加入率67%は高く評価できる。ますます活気のある活動を期待する。	・来年度、生徒や保護者等の満足度、充実度等をさらにアップさせるため、生徒会活動等の内容を充実させる。
3 部活動及び各学科の特性を活かした活動により、自己実現のために必要な資質や態度を育成する。	2 ・公開講座や地域対象行事の実施 年2回以上	2 ・公開講座 3回実施	A	A		
	3 ・部活動加入率 65%以上	3 ・部活動加入率 67.0%	A			
活動計画	活動計画による実施状況	(所見)				
1 ・生徒会主催の各種行事の企画立案及び運営等について主体的に取り組ませる。 ・各部活動による通学路・中田駅付近の清掃活動や式典の会場設営等への自主的参加を促し、責任感や協働心を育む。	1 ・松西祭・校則改正に向けての話し合い等において積極的に企画立案及び運営等を行うことが出来た。 ・JRC部による月1度の中田駅の清掃活動や部活動による式典等の会場設営など積極的に活動し、責任感や協働心を育むことが出来た。	・各活動とも積極的に行なうことができた。	・地域における各種イベントに多大な協力をしており、大変評価できる。	・様々な取組をマスコミや本校HP等を利用して、積極的に発信を広げていく。		
2 ・地域における各種イベントへの参加等を通じて、地域の伝統や文化を継承させ、地域に根付いた連携活動につなげる。	2 【商業科】 ・雪花菜工房部などを中心に積極的に小松島市や小松島署など地域のイベントに参加し、小松島市の伝統や文化に積極的にふれ、地域に根付いた活動を行うことが出来た。 【食物科】 ・本校主催の「ミニカフェ+」を年4回(6月・11月)、産フェスやJA祭りへの参加(11月)、1月には県主催の食育イベントに参加するなど地域との連携、地産地消をテーマに活動した。 【生活文化科】 ・中学生対象のファッショントラボを行った。 【福祉科】 ・福祉施設での夏祭りにボランティアとして、利用者の介助を行った。	・参加を促すための周知を徹底したこともよかったです。 ・各部活動の充実度アップに向けては今後考えていく必要がある。	・学習、資格取得、部活動と大変忙しいと思われるが、地域活性化のための活動を引き続きお願いする。 ・様々な取組をもっと広くアピールして入学希望につなげればよいのではないか。	・中学生3年生の入学希望につながるよう、中学生に向けてアピールできる方法をもっと考えていきたい。		
3 ・全部員による主体的で活発な活動を展開する。 ・キャプテン・部長を中心に部活内のルール・マナーの向上に取り組む。	3 ・各部とも、顧問・主将・マネージャーを中心となり、よく話し合いを行い、ルール・マナーの向上に努めた。	・地域と密接につながった行事を行なうことができた。	・発信の方法等をもっと考えてみてはいかがか。 ・産フェスでの各科の取組は学校の特色を一般の方に知っていたらよい機会であり、生徒の皆さんの丁寧な説明や対応が好印象であった。	・今後もイベント等での参加を継続し、学校の特色をさらに広めていきたいと考えている。		

重点課題 VI 環境教育の推進と安全教育の徹底

重点目標	自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標と活動計画		評価			
評価指標	評価指標の達成度		総合評価			
1 校内外の環境美化に努めるとともに、環境学習を推進する。	1 ・「清掃活動への主体的取組」 （生徒） 80%以上 ・「環境美化に対する意識の定着」 （生徒） 80%以上	1 ・「清掃活動への主体的取組」は69.8%で目標の80%に届かなかった。 ・「環境美化に対する意識の定着」は77.8%で目標の80%に少し足りなかったが、意識づけはできているように思う。	(評定) C B		・環境美化意識の定着は一定程度評価できるため、今後は活動を実践する方向に力を入れてはいかがか。例えば、海岸を有する小松島という地域性から、海ゴミの清掃活動などに取り組んでみてはいかがか。	
2 SDGs の実現に向けた取組を推進し、社会的実践力を育成する。	2 ・「SDGs 活動の取組」（生徒） 80%以上	2 ・「SDGs 活動の取組」は75.1%で目標の80%に届かなかったが、これも少しずつ浸透していると思う。	B A		・清掃活動への取組は大事なので、しっかり取り組み続けるべき。	
3 自他の生命を尊重し、健康の保持増進と安全・防災意識の徹底を図る。	3 ・避難訓練の実施 ・心肺蘇生法講演会の実施 ・危険箇所、施設、設備点検（教職員）	3 ・避難訓練は4月（地震）と12月（火災）に2回実施できた。 ・心肺蘇生法は、福祉科で全学年に対し、保健体育では1年の授業の中で行うことができた。 ・危険箇所、施設、設備の点検については、まず年度当初に行つた。また、隨時ではあるが施設設備の点検は行つている。	A A A		・海の近い場所なので防災への意識はとても大事である。 ・老朽化した施設等の改裝や改築にも気を配るべきではないか。	・避難訓練は年2回の実施を行う計画である。 ・施設、設備の不具合には気を配り、また、引き続き危険箇所の点検を行つていきたい。
活動計画	活動計画による実施状況		(所見)			
1 ・学校周辺及び中田駅の清掃活動を実施。 ・節電・節水・ゴミ分別の呼びかけと環境美化委員による校内美化活動の実施。	1 ・JRC部によるボランティア活動として毎月1回、中田駅構内及び周辺の清掃活動を実施している。今年度は4回できた。 ・環境美化委員を中心とした「とくしまGXスクール」の活動として、ゴミの分別、減量化、節電節水への取り組みを行つてている。	1 ・JRC部だけではなく、全生徒に周知して行つているので、興味関心のある生徒が多く参加してくれた。 ・ゴミの分別ができていないときが目立つようになると徹底を促すように働きかけている。			・中田駅にトイレがなくなり、困っている生徒が多い中、小松島自動車学校が使用を許可してくれたことはとても有意義なことである。	・JRC部の活動を中心とした中田駅周辺のボランティア活動を続けていく。予定は6回。
2 ・ホームルーム活動や人権ホームルーム活動、各種の行事等により、SDGs活動への啓発と生徒個々で実施できることへの意識付けを行う。	2 ・また、ホームルーム活動などを通してゴミの分別や減量化を行うよう働きかけている。	2 ・年度当初に防災計画を見直し、管理責任者の確認をし、教職員への周知徹底を行つた。 ・心肺蘇生法は、福祉科で全学年行っており、また、保健体育では保健の授業で行つてている。 ・4月の防災避難訓練では全生徒、全教職員が参加し、避難経路、避難場所を確認することができた。また、同時に危険箇所の確認も行つた。防災備蓄品は適宜購入し、保管している。			・生ゴミ処理機「キエーロ」を引き続き活用してほしい。 ・小松島市で年1回実施している総合防災訓練に参加してはいかがか。	・集団給食での残飯の処理には「キエーロ」の活用を継続し、SDGsについて考える機会とする。 ・年間行事予定をふまえ、参加できるように検討したい。
3 ・防災計画の見直しと教職員への周知徹底 ・心肺蘇生法講習会を実施し、知識や技能を習得させる。 ・防災訓練の実施及び避難経路、避難場所、危険箇所、防災備蓄品等の確認	3 ・	3 ・				

重点課題 VII 学校運営体制の充実

重点目標	自己評価		学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
1 教職員としての倫理観と使命感のもと業務を遂行し、信頼される学校づくりに努める。	1 ・「協働的な職場環境づくりに努めた」(教職員) 80%以上 ・「コンプライアンスを常時意識している」(教職員) 100%	評価指標の達成度 1 ・「教育目標を実現するために、組織的な取組みが各分掌、学年、教科で行われている」に91%の教職員が行われていると回答。	総合評価 (評定) A	・総合評価を「A」にしてもよいのではないか。 ・教員の時間外勤務については、残業手当の代わりに教職調整額というものがあり、将来10%まで上がるといわれている。しかし、残業を認めてしまうことにならないよう、業務内容の見直しを行い、働き方改革に取り組むべきではないか。	・教員の総労働時間の縮減については、「ワーク・ライフ・バランス」実現に向け、業務の効率化や最適化、既存の学校行事や各科の事業見直し、業務量の平均化を図ることも課題となる。体調不良やメンタル不調に加え、事故や不祥事の未然防止のためにも、ストレスチェック受検の推奨、結果の分析を行い、在校等時間の縮減に繋げられるよう管理職から働きかける。また、運動部の外部コーチや文化部の指導者人材バンクを活用し、教員の働き方を改善する。
2 業務の効率化を図るとともに、個々のワークライフバランスを充実させる。	2 ・時間外在校等時間前年度比削減 (教職員) 70%以上 ・業務の効率化と積極的なICT活用 (教職員) 70%以上	・「常によりよい職場環境づくりに努めている」には98%の教職員が努めていると回答。 ・「常にコンプライアンス意識を持って勤務している」に100%の教職員がはいと回答。	A B	・企業でも人手不足は大きな課題となっているが、充実した教育を実践するために教員の魅力も発信できればよいのではないか。	
3 教育活動の発信により、開かれた魅力ある学校づくりに努める。	3 ・「ホームページやメール連絡等により適確な情報発信ができている」(保護者) 70%以上 ・「専門高校としての意義や魅力を感じる」(生徒・保護者) 70%以上	2 ・時間外在校等時間が前年度比30%超の状況となってしまった。 ・「業務の効率化や積極的なICT活用に努めている」に96%の教職員がはいと回答。 3 ・「緊急連絡メールやホームページを活用して的確な情報発信を行ってくれている」と86%の保護者が回答。 ・「専門的な学びに魅力や意義を感じている」と86%の生徒、89%の保護者が回答。	C A A		
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)		
	1 ・管理職による教職員面談を年2回以上実施するとともに、各種行事や会議等を通して互いの理解を深める。 ・コンプライアンス研修をこまめに実施し、教職員としての倫理意識の維持向上に努める。	1 ・年2回(5月・1月)学校長による教職員面談を実施する以外に、各科・課行事の事前打合せなど密に話し合いを行っている。 ・職員会議や職員朝礼等の機会を捉えてコンプライアンス研修を行い、教職員の綱紀保持や服務規律確保に向けた意識向上に努めた。	・各科・課ごとの連携や情報共有が図られ、組織的な取り組みに繋がり、成果を上げている。 ・生徒の活動や努力の成果が対外的に見える化され、学校の評価やイメージアップに繋がったと考えられる。	・いろいろな取組について工夫されており、魅力ある学校づくりをされていて素晴らしい。一方で教職員が疲弊しないか心配な面もある。管理職のマネジメントで働き方改革をすすめていただきたい。	・保護者からの緊急連絡メールを活用した欠席連絡や学校からのメールでの文書連絡を継続して行う。
	2 ・各課内でPT業務改善を行うことで、働き方改革につなげる。 ・留守番電話を午後6時～翌朝午前7時30分に設定し、時間外勤務を削減する。 ・職員共有サーバーの活用、掲示板による情報共有やformsによるアンケート調査実施等、業務の効率化に繋げる取組を積極的に取り入れる。	2 ・職員朝礼連絡のスリム化、出張復命書の簡略化、夏休の完全消化や定時退庁の声かけ、留守番電話設定、アンケート回答法の工夫等により、教職員の働き方の意識向上に繋がる要素が増えた。	・実習や学校行事、部活動指導等において成果を挙げた一方で、その準備等に費やす時間外在校等時間が大幅に増大し、縮減の目標値に届かなかった。	・各科・課、部活動等が連携して学校ホームページの更新や動画製作の充実化を図り、中学生の進路説明会や体験入学にインパクトのある情報発信を行う。	
	3 ・各科、校務分掌、部活動等と連携し、積極的なホームページ更新、学校の魅力発信に努め、地域に開かれた学校づくりを推進する。 ・地元関係機関との連携や学校運営協議会における学校評価を分析し、学校行事の公開や生徒募集、進路開拓等につなげる。	3 ・各科・課や部活動等が、学校行事や地域交流、対外試合等の活動内容をホームページを通して積極的にアピールしたことで、本校への関心の高まりやイメージアップが図られ、中学生体験入学や文化祭への参加数が増加した。 ・学校運営協議会において本校の取組みを紹介			

・生徒や保護者との信頼関係を図りながら、マスメディアを活用した広報等、幅広い視点からの情報発信に努める。

し、校則見直し等の内容について委員から頂いた課題や改善点等を参考にして、作業を進めることができた。

・新聞やテレビ等を通して、本校生の活動の様子を広く発信し、地域の方に広報することができた。